

個展を終えて

—写真展「シェムリアップの風」開催記—

松本ひさ子

一度「個展」とやらをしてみたい！と漠然と思っていました。

シェムリアップ旅行を終え、何日か掛けてブローニーフィルムの実像を終えた時、「もしかしたら出来るかも」から「やってみようか」と変化していきました。周りの人に吹聴して「やめたと」ならないように自分を追い込み、まだ気力と余力がある内にまず行動をとコスモスの新山さんに聞いて見たのが去年6月です。

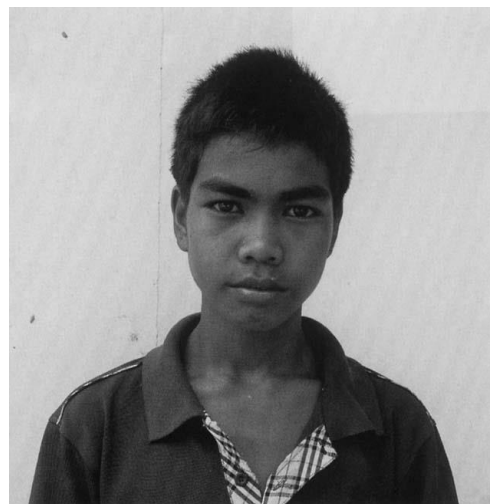
私が参加している里親制度のきっかけは、7年くらい前に富士フォトサロンで見た藤井秀樹さんの写真展『孤児たちの肖像』でした。支援活動の小さな一点でカンボジアの自立への貢献度は低いかも知れません。点もいつかは面に、トンネルもいつかは抜けられるはず、地味に長く続けて行こうと思っています。

始めて降り立ったシェムリアップ空港は寺院を利用して造られたそうでタラップを降りて徒歩で入国します。夜のむっとした暑さと独特の臭いがあります。現地スタッフのタイさんが町のホテルまで送ってくれました。食事無し一泊が15ドルと格安ですが私にとって何の不足もない快



適なホテルでした。国道六号線に面していて夜が明けかかるとバイクやトクトクの音が聞こえます。信号は減多になく渡るときは決して走らないで、車側が速度を加減してくれるからというので、朝食は隣接したレストランで現地の人が食べているのを指さし注文、そのうちに偏食家の私の気に入ったシーフード系の米麺が定番となりました。カンボジアの通貨リエルは弱く（100リエルが3円）、ドル歓迎で補助的なおつりでお目にかかります。コインはありません。

何といっても暑さ対策は必要不可欠です。あまり汗っかきでない私ですら日中一度戻ってシャワーと着替えと休息を取って出直しました。汗が目に入りピントが見えなくなる経験もしました。マスクも絶対必需品、土埃りがひどく喉が痛くな





り現地の雑貨屋さんで調達しました。

CVSGの村や寄宿舍では片言の日本語と英語、似顔絵を描いたりして遊んでいました。食事は質素でタイ米のご飯に漬け物のような野菜がメインです。犬や猫が勝手に同居していてハエや虫も全く気にしていないようでした。小さい子は井戸から引いたホースで水を掛け合って遊び木陰のハンモックで休んだりしています。冷蔵庫は電気代が高いからと持ってる家は極めて少ないそうです。

アンコールワットは長い工事中で他国の援助で修理が行われています。観光のみに頼りすぎない自立の道を模索しつつも現状は人々の意識の面からも課題はいっぱいです。

DMが出来た時、展示が完了した時、ジワーっと実感が込み上げてきました。日程的な配分、広報、段取りなどは既に個展を多数経験しているK氏に教えて頂き、感謝しきれないほどお世話になりました。会期中は仕事を休みギャラリー通勤を楽しむことにしました。往きと復りは違う道を通りどこかレトロな昭和っぽい商店街を散策しました。

ゾーンの皆さんに沢山足を運んで頂いてとても嬉しかったです。お陰様で自分の納得のいく等身大の個展を無事終了することが出来ました。

覚えたカンボジア語は二つ・スースダイ（おはよう、）オークン（ありがとう、お世話になりました）

末筆に心より“オークン”合掌。夢のような経験をありがとうございました。

シェムリアップの風

松本 ひさ子 写真展



■期間：2011年2月8日(火)～2月13日(日)
■会場：ギャラリーコスモス 入場無料
■開場時間／11:00～18:30(会期中無休)